



# 各省の、その先にいる 国民の幸せに想いを馳せて

西澤 能之 NISHIZAWA Takayuki  
内閣官房内閣人事局 参事官

## これまでのキャリアをふりかえって

「国家・国民のために仕事をしたい」「霞が関批判(“縦割りの弊害”“省益優先で国民不在”)に直接アプローチしたい」そんな“想い”を胸に入省して24年、想像以上に広いフィールドと、楽しくやりがいのある仕事で、“想い”を形にしてきました。

行政管理の仕事は、組織定員の査定であれ公務員制度であれ、直接の対象は各省で働く国家公務員です。では、国家公務員は何のために存在しているのか?国民が困っていることを解決し、国民の安全安心を守り、わが国の発展のための施策を立案し遂行する、すなわち「国民を幸せにする」ための存在だと思えます。

人口減少・少子高齢化、AIの進化…新時代の行政課題に対峙するための行政組織体制や国家公務員の働き方を、国民の幸せに想いを馳せながら、一緒に考えてみませんか?



大臣秘書官時代。国会審議に臨む大臣をサポート。

### 2018～現在 内閣官房内閣人事局 内閣参事官(企画調整、労働・国際担当)

内閣人事局に異動し、機構総括の企画官を経て現職。定年引上げ、能力実績主義と人材流動性、テレワーク、非常勤職員の処遇改善…。国家公務員一人一人が、国民をHappyにするために生き生きと働ける環境整備や制度づくりに汗を流しています。

### 2014～2017 総務大臣秘書官

高市総務大臣の秘書官として、大臣と同じく歴代最長の1066日お仕えしました(大臣は記録更新中)。常に生活者視点で「直面する様々な課題を、広範な政策資源を持つ総務省の力で解決できないか」とお考えになる大臣と各部局をつなぐ立場として、緊張感と大きなやりがいの日々でした。

### 2013 大臣官房秘書課 企画官

1種・総合職職員の人事と採用を担当しました。“想い”を持った個性豊かな面々を総務省の仲間を迎え入れたことは、私のこれまでの公務員人生の中でも大きな成果です。内閣人事局の設置にも、組織の移管元という立場で関わりました。

### 2008～2012 行政管理局 副管理官(内閣・内閣府・総務省担当) 副管理官(独立行政法人総括) 副管理官(定員総括)

行政管理局で機構・定員の査定業務に従事しました。最初は各省担当として内閣府や総務省の要求をヒアリングして査定案を立案します。後半は総括担当で、政府全体の最適配置を考えながら全体の増員数や各省への配分を決める役割でした。消費者庁や復興庁といった新しい組織の立ち上げにも携わりました。

### 2006～2007 人事・恩給局 参事官補佐(人事評価)

霞が関に戻り、人事評価制度の導入に携わりました。公務員一人一人がやりがいを持って働き、組織全体として最大のパフォーマンスが発揮するには、どのような制度にすればよいか?民間の事例を研究したり、各省の人事担当者と議論したりしながら、“制度づくり”の面白さを味わいました。

### 2003～2005 鳥取市 企画推進部長

市役所の部長になり、市町村合併、観光振興、中心市街地活性化、行財政改革、まちづくり計画の策定などあらゆる課題に取り組みました。「市民の幸せのために何ができるか?」公務に携わる者としての基本軸を改めて認識した3年間でした。

### 2000～2002 行政管理局 行政改革担当主査 企画調整課係長

建設省(当時)への出向を経て、行政管理局での係長時代。与党主導で「特殊法人全廃」「公務員制度の抜本改革」などが打ち出された行政改革大綱の策定に従事しました。昼は与党の会議でメモ取り、夜は職場に戻り関係部局と協議という慌ただしい毎日でしたが、閣議決定の日の達成感は大いなものがありました。

### 1996～1997 内閣総理大臣官房総務課(旧総理府・総務庁の合同採用)

1年目は官房総務課に配属され、国会対応や文書・法令審査など仕事の基本を叩き込まれました。「調整とは決して2で割ることではない」「誰まで上げなければならない案件か、その判断を誤るな」等々…。当時の上司の教えは今も貴重な財産です。